

創立 30 周年記念事業の実施にあたって

創立 30 周年記念事業実施委員会
委員長 横井 秀俊

一般社団法人プラスチック成形加工学会は、1988 年 12 月の設立総会から数えて、今年で創立 30 周年を迎えこととなりました。第 29 回年次大会は、創立 30 周年記念大会として「30 周年成形加工は新たなステージへ」をスローガンに、通常 2 日間の日程枠を 1 日拡大し、2018 年 6 月 20 日～22 日の 3 日間にわたりタワーホール船堀にて開催することとなりました。

創立 30 周年を記念して、(1)成形加工の要素技術、成形技術、総合化技術、デザインまでスコープを広げた著名な講師 5 人による 30 周年記念特別講演に加えて、(2) 特別交流会、(3) 記念式典と各種表彰、(4) 記念特集号の発行、さらには (5) 30 周年を起点とした若手エンカレッジメントプログラム（若手奨励賞）の創設、以上の 5 つの記念事業が企画されました。理事会/年次大会実行委員会/記念事業実施委員会は、密接な連携をはかりながら、一年半にわたり、5 つの記念事業の実現に向けて鋭意・準備を進めてまいりました。本年次大会の会期中に、(1) 特別講演会、(2) 特別交流会、(3) 記念式典と各種表彰、以上の 3 事業が順次実施されることとなっています。また、慎重に審議を重ねてきた (5) 若手奨励賞の創設も、いよいよお披露目される運びとなりました。

新規企画の (2) 特別交流会では、創立 30 周年という節目を多くの仲間と単に祝い合うだけでなく、技術開発や学術研究におけるこの 10 年間の発展を会員相互がパネル展示し、これまでの 10 年の発展の流れと現在の到達点に立脚して、これからの 10 年の発展方向と学会活動の未来を語り合う「場」として企画されました。数百人規模の会員が一堂に会し、将来を語り合う企画は、本学会で初の試みです。創立 30 周年を迎えて、プラスチック成形加工の未来はどのような姿になってゆくのか、どのような分野に発展すべきか。成形機や金型、材料、CAE、成形技術などの成形加工を構成する主要な要素技術群が集い、「成形加工は新たなステージへ」を掛け声に、分野境界や産学官の枠を超えた総合的な情報交流とオープンなディスカッションで、熱い意見を闘わせていただきたいと思います。30 周年記念事業にふさわしい企画となることを期待しています。

本冊子は、創立 30 周年記念冊子として、珠玉の特別講演要旨ならびに 100 件を超える展示ポスター原稿、本学会の 30 年小史を収録した貴重な資料集です。別冊の講演予稿集とともに、是非有効にご活用ください。

30 周年記念事業は、同実施委員会、年次大会実行委員会、学会誌編集委員会など多くの関係者の献身的なご尽力により、意欲的に、創造的に、発展的に企画され運営・実施されています。また、公益財団法人金型技術振興財団からは趣旨にご賛同をいただき特別交流会等の実施に多大なご助成を賜りました。多くの賛助企業からは、ゴールドスポンサーへのご登録および広告掲載などを通して財務的なサポートを賜りました。記念事業実施委員会を代表して、ご助力・ご協力を賜りました関係者各位、財団、企業各社に心より感謝を申し上げます。